

ピアニスト、指揮者、作曲家の顔を持つ
「天才」との呼び声高い
フィンランドの巨匠、
9年ぶりの来日が実現 !!

「ムストネンの演奏は、聴き慣れた作品に
新たな光を与えるもの。即興性と刺激に
満ち、鋭敏な感性が隅々まで息づき、作
品がいま生まれたようなみずみずしさを
放つ」——伊熊よし子(音楽評論家)

公演に向けたエッセイは裏面へ

オリ・ムストネン ピアノ・リサイタル

シューマン：子供の情景 op.15

プロコフィエフ：ピアノ・ソナタ 第8番 変ロ長調「戦争ソナタ」op.84

ベートーヴェン：ヴァニツキーのバレエ「森のおとめ」のロシア舞曲の
主題による12の変奏曲 イ長調 WoO.71

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第23番 へ短調「熱情」op.57

Olli Mustonen

[全席指定] S 6,000円 / A 5,000円 / 学生 3,000円

※学生券はパシフィック・コンサート・マネジメントとトリフォニーホールチケットセンターのみのお取扱いです。

PCM パシフィック・コンサート・マネジメント
03-3552-3831 <http://www.pacific-concert.co.jp/>

トリフォニーホールチケットセンター 03-5608-1212 (10:00~18:00)
トリフォニーホールチケットオンライン www.triphony.com

※オンライン購入にはトリフォニーホール・チケットメンバーズ(無料)へのご登録が必要です。

2018
2/10 [土] 14:00 開演 (13:30 開場)
Piano Recital

すみだトリフォニーホール

JR&東京メトロ「錦糸町駅」より徒歩5分／東京スカイツリータウン®より徒歩20分

オリ・ムストネン 50歳のバースデーに寄せて

2017年6月、オリ・ムストネンが50歳を迎えました。この記念すべきバースデーに、多数の音楽家たちがメッセージを寄せています。(英・グラモフォン誌より抜粋)

●スティーヴン・イッサーリス

いつも容易くその言葉の価値を減じてしまう“天才”という語を使うことについても抵抗を感じるが、もしそれが存在するすれば、それはオリだ。彼は異なった視点で純粹に世界を見ている。(中略)オリの紡ぎだすすべての音は彼自身の奥深くから、そして偽りのない真の確信から奏でられる。そして彼はいつも作曲家としての目線から音楽を捉えている。人生を充実させるオリ自身の音楽は彼の内面生活を豊かに表現しており、彼が過去に愛した音楽と、母国フィンランドの力強く美しい自然とその民族音楽にルーツがある。作曲家としても演奏家としても、近年まことにみる比類ない声を持っているのだ。

●ロディオン・シchedrin

親愛なるオリ、あなたは現代における音楽界で、光り輝き、類まれなる存在で、驚くべきアーティストです。あなたの特別な芸術性を持つビアニズム、そして指揮とあなたの作曲した作品は、すぐあなたのものだと分ります。オリの芸術的魅力と個性、そして偉大な音楽家であることを、敬愛してやみません。

●パーゴ・ヤルヴィ

オリは“唯一無二”的音楽家であり、個性の持ち主です！忘れない音楽的瞬間が彼との間には幾度もあります。彼の多才さは本当に素晴らしい、傑出したビアニストであり、指揮者であり、そして作曲家です！オリの人としての謙虚さや、音楽への深い献身が大好きなのです。

●スティーヴン・ハフ

もし「いま生きている中で特別なビアニストは？」と尋ねられたら、私は躊躇なくこう答えるでしょう、「それはオリ・ムストネンだ」。彼らではの声を持つだけでなく、むしろ独特な頭脳の持ち主で、人とは異なった考え方をし、音楽を通じて心を響かせているのです。オリのやることすべてに同意できる人がいるかはわかりませんが、それこそが非凡なる証です。彼がバッハ、ベートーヴェン、ショスタコーヴィチを演奏したコンサートを思い出すと、その作品がまるでたった今書かれてまだインクも乾いていないように感じたものです。



© Outi Tormala

演奏のたびに、「何か面白いことをやってくれるのでないだろうか」「新たな発見があるのでないだろうか」と期待を抱かせるピアニスト、オリ・ムストネンは、ヘルシンキ生まれ。初来日は1990年だった。

ベートーヴェンのピアノ・ソナタの演奏中にフワーッと椅子から腰を浮かし気味にしたり、顔から流れる汗を右手を跳ね上げるようにして何度も袖口で拭いたり、常に足をぶらぶらと前後に動かしてリズムを刻んだりと、音楽とともにそのステージマナーも興味深く、超没頭スタイルの演奏に聴き手も一瞬たりとも気が抜けなかつたものだ。その濃密な時間は、いまでも脳裏に焼き付いている。

インタビューでもムストネンは饒舌。両手を大きく動かし、表情を瞬時に変化させ、まるで役者を見ているような思いがしたものだ。

「ベートーヴェンがアイドルなんですよ。滅多に演奏される機会のない作品も研究して録音したりステージにかけています。ベートーヴェンは昔から私の光であり導き手であり、神のような存在である。ただし、非常に人間的な面を作品に投影させています。喜怒哀楽のすべてを曲に映し出した人ですから、知られていない作品まで研究したくなるのです」

レパートリーは幅広く、J.S.バッハからショスタコーヴィチまで多岐に渡る。プロコフィエフもライフワークのひとつとして数多くの作品を演奏し、高い評価を得ている。

ムストネンの父親は統計学者で、ムストネンも幼いころから数学好き。一時は音楽家ではなく数学者になろうと思ったとか。それだけに分析は得意中の得意。さらに作曲家でもあることから各々の作品の作曲技法を研究し、バッハとショスタコーヴィチの納得いく組み合わせなどを見出す。

「真の天才というのはある高みに至ると類似性が見られる。バッハとショスタコーヴィチはまるで異なる作曲家のように思われていますが、実際は類似性が見られます。以前、歌舞伎の玉三郎の舞台を見たときに、一

瞬力ザルスのチロを聴いているような感覚にとらわれましたが、類まれなる天才が生み出す芸術はある類似性を生み出すものなんですね。同じような至福の時を与えてくれますから」

ムストネンはピアニスト、作曲家、指揮者の顔をもち、以前の来日公演では自作のコンチェルトを披露した。親友であるチェロのスティーヴン・イッサーリス、ヴァイオリンのジョシュア・ベルともよく自作を演奏している。さらに指揮のエサ＝ペッカ・サロネンとも親しく、両者の作品で共演を重ねている。近年は作曲家のロディオン・シchedrinとも交流して作品を献呈され、夫人のマイヤ・プリセツカヤとも親しかった。

「ご夫妻はショスタコーヴィチと交流があったわけですから、実に多くのことを学びます。こうしたさまざまな芸術家との交流が、私の音楽を肉厚なものにしてくれるわけです」

ムストネンの演奏は、聴き慣れた作品に新たな光を与えるもの。即興性と刺激性に満ち、鋭敏な感性が隅々まで息づき、作品がいま生まれたようなみずみずしさを放つ。彼は演奏に没頭すると、異次元の世界に入り込んだような表情を見せ、音楽は現世から離脱していく。そこにはムストネン特有の世界が広がり、各々の作品を自分が作曲したかのような一体感を抱き、作品とひたすら同化していく。

ムストネンは弾き振りも行い、コンチェルトではその手腕を披露しているが、指揮姿もまた超個性的。一度その演奏に接すると、忘れられない記憶となって心に居座る。今回の来日プログラムは、「いまのムストネン」を映し出す選曲。聴き手にも集中力を促し、緊迫感ただよう演奏は、とても刺激的である。胸の奥に突き刺さってくるような凛とした音色、研究し尽くされた解釈は、聴き手をも異次元の世界へと浮遊させてくれる。スリムながらだにオーラを纏い、ムストネンはピアノを通じて私たちを幻想の世界へといざなっていく。

伊熊よし子(音楽評論家)

オリ・ムストネン(ピアノ) Olli Mustonen, Piano

ラフマニノフ、ゾーニー、エヌスクといった偉大な作曲家の伝統を継ぎ、作曲家、ピアニスト、指揮者として非凡な才能を持つ、今日の音楽界において特異な存在である。一人三役での公演も多く、その音楽性は高く評価されている。これまでにソリストとして、ベルリン・フィル、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、シカゴ響、クリーヴランド管、ニューヨーク・フィル等の著名オーケストラと、アシュケナージ、バレンボイム、ブロムシュテット、ブレーズ、チョン・ミョンファン、デュトワ、エッシュンバッハ、アーノンクール、マズア、ケント・ナガノ、オラモ、サラマン、バーヴォ・ヤルヴィ等の指揮者と共に演奏している。またゲルギエフとは何度も共演を重ね、これまでにマリイン斯基劇場管、ミュンヘン・フィル、ロンドン響、ロッテルダム・フィル等と演奏している。近年は自身が作曲した作品を各地で指揮しており、交響曲や室内楽曲を初演し、各地で再演されている。また、2017年ダヴォス音楽祭のコンポーザー・イン・レジデンスを務める。指揮者としてこれまでに、トイツ・カンマー・フィル・ブレーメン、ケルンWDR響、カメールタ・ザルツブルク、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ響、NHK響のほか、フィンランドの主要オーケストラを指揮しており、弾き振りも數多く行う。

シchedrinからの信頼は厚く、ピアノ協奏曲第5番を献呈された。イッサーリスとは30年以上にわたり共演を続け、2014年にはBISレーベルよりリマルティヌーとシベリウス、そしてムストネンの作品をリリースしている。録音は、オンドイースからのハンヌ・リントゥ指揮フィンランド放送響とのピアノ協奏曲全曲のほか、多数リリース。1997年ロンドン・デッカからの『ショスタコーヴィチ&アルカン: 前奏曲集』はエディソン賞とグラモフォン賞を受賞した。ヘルシンキ生まれ。5歳よりピアノ、ハープシコード、作曲を学ぶ。最初にラルフ・ゴーテニに、その後ピアノをエーロ・ハイノネンに、作曲をエイノ・ユハニ・ラウタヴァーラに師事。

CD

プロコフィエフ：ピアノ協奏曲第2集 第2・5番
ハンヌ・リントゥ指揮 フィンランド放送交響楽団
オリ・ムストネン(ピアノ)
■ 資料:2017年3月(第2番)&2016年4月(第5番)/ヘルシンキ・ミュージックセンター
■ ODE1288

■入場料(税込)

【全席指定】 S 6,000円 / A 5,000円 / 学生 3,000円

*学生券はパシフィック・コンサート・マネジメントとトリフォニーホールチケットセンターのみのお取扱いです。

トリフォニーホール・グレート・ピアニスト・シリーズ2017/18 [チョイス券]

11/23ヴィルサラーゼ、2018/2/10ムストネン、3/17アンデルシェフスキ
3公演5席同時購入は15%引(11/22までの販売)

*トリフォニーホールチケットセンターのみ取扱い

■お申込み・お問合せ

パシフィック・コンサート・マネジメント

03-3552-3831 <http://www.pacific-concert.co.jp/>

トリフォニーホールチケットセンター 03-5608-1212 (10:00~18:00)

トリフォニーホールチケットオンライン www.triphony.com

*オンライン購入にはトリフォニーホール・チケットメンバーズ(無料)へのご登録が必要です。

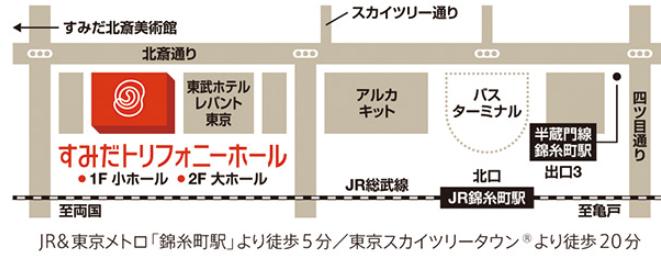
イープラス <http://eplus.jp/>

チケットぴあ <http://pia.jp/> 0570-02-9999 (Pコード: 322-885)

ローソンチケット <http://l-tike.com/> 0570-000-407 (Lコード: 32923)

*やむを得ない事情により、曲目等が変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

*就学前のお子様のご入場・ご同伴はご遠慮ください。



JR & 東京メトロ「錦糸町駅」より徒歩5分 / 東京スカイツリータウン®より徒歩20分

主催: パシフィック・コンサート・マネジメント

共催: すみだトリフォニーホール

後援: 一般社団法人全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)

その他の公演

● 京都市交響楽団

2018年2月16日(金) 19:00 開演 京都コンサートホール・大ホール

オリ・ムストネン: 弦楽オーケストラのためのトリビュート／ベートーヴェン：

ピアノ協奏曲第3番 ハ短調／シベリウス：交響曲第2番 ニ長調

*一人三役(指揮・ピアノ・作曲)

[お問い合わせ] 京都コンサートホール 075-711-3231